



## 書く力は一生の財産

校長 田口 利一

10月31日、恵那市教育委員会指定の研究発表会を行いました。当日は地域の方や教育委員会、恵那市や東濃地区の先生方、約120名の方に子どもたちの勉強の様子を参観していただきました。子どもたちは緊張していましたが、普段のように授業に取り組むことができました。



飯地小学校では、子どもたちが自分の思いや考えをいきいきと書けるようにと取り組んでいます。それは、書くことで育つ力がいっぱいあるからです。

たとえば、「問題を発見する力」「発想力」「論理的思考力」「説得力」「アピール力」などです。言葉や漢字、文法など覚えること（インプット）も大事ですが、これからの時代は、学んだことを使って表現（アウトプット）する力が、もっと大事になってくると思っています。

こうした取り組みを通して、子どもたちは、どうしたら相手に伝わりやすいかを考えて、文章を書くことができるようになってきました。その中で、宿題の日記はたいへんユニークで、読んでいても楽しくなります。読み手が楽しく感じれるということは、子どもたちも楽しんで書いているのかなと思います。

私も小学生の頃、授業でたくさん作文を書いた記憶があります。当時は、「また作文？」という気持ちで、書くことの必要性や大切さをあまり感じていなかったように思いますが、書くことを通して、言葉を覚え、考える力を身に付けてきたのだと感じています。佐藤一斎先生が言われるように、三学の精神、人生に無駄なことは一つもないのだなと最近特に思います。

ただ何となく文章を書くのではなく、作文などを書きながら、「書いて見る」、つまり自分の気持ち、感じ方や考え方などを見つめてきたのかもかもしれません。その気にならなければ見えない「心・気持ち・思い」を、言語という「見えるもの」にして見ようとする訓練をしてきたのかもかもしれません。

日記・詩、俳句などを書き続けている人もおられます。部活動やスポーツの世界でも選手が日記を書いているのをよく見ます。書くということは、文章が上手になることだけが目的でなく、今の自分自身との対話であり、自分の成長に欠かせないことではないかと思っています。



最近、スマホや携帯電話のメール等が発達し、短い文でコミュニケーションができてしまう時代です。しかし、子どもたちの将来には、入学試験、面接試験、論文試験などがあります。人前で話すことや多くの人と話し合いをすることもあられるでしょう。ですから要点をまとめて書くとか筋道だった文を書くなどの「書く力」が重要になってくると思います。

「書く力」は一生の財産になります。これからも、小学校では「書くこと」を大事にしていきたいと考えています。

< 10月の活動から >  
 人権の花運動  
 パンジーの苗の移植



学校では子どもたちの思いやりの心を育てるために、花や野菜の栽培をしています。8月にまいたパンジーの苗が大きくなり、大きなポットに植え替えました。春にきれいな花を咲かせ、学校や地域を飾れるように、子どもたちが日々花の世話を頑張っています。

笠周3校交流会



中野方小学校・恵那北小学校の3・4年生が飯地小学校に来ました。飯地小全校児童の輪車演技を見てもらい、他校の子どもたちは「すごいな」と思ってくれたようです。その後には、3校の3・4年生が6つのグループに分かれ、グループごとにクイズをしたり、ゲームをしたりして交流しました。

**11・12月の予定**

< 11月 >  
 2日(木)命を守る訓練 就学時健康診断  
 7日(火)歯科検診  
 25日(土)いいじっこ発表会 10:00~  
 (地域の皆さんも是非お越しください)  
 27日(月)振替休業日  
 30日(木)芸能祭(恵那文化センターで  
 舞台鑑賞) 弁当持参  
 < 12月 >  
 5日(火)~7日(木)個人懇談

研究発表会の様子から  
 表面でも当日の様子をお伝えしましたが、  
 頑張って授業に取り組んでいた姿を写真で  
 紹介します。



1年生の様子



4年生の様子



5年生の様子

2・3・6年生の様子は、ホームページで紹介しております。

< 12月(続き) >  
 9日(土)持久走大会  
 (土曜授業・振替休みなし)  
 13日(水)板橋校医の講話  
 (5・6年生対象)  
 22日(金)スケート教室(弁当持参)  
 26日(火)終業式  
 27日(水)~1月8日(月)冬休み